信州の遺跡をたずねる　神科の遺跡

陣馬塚古墳

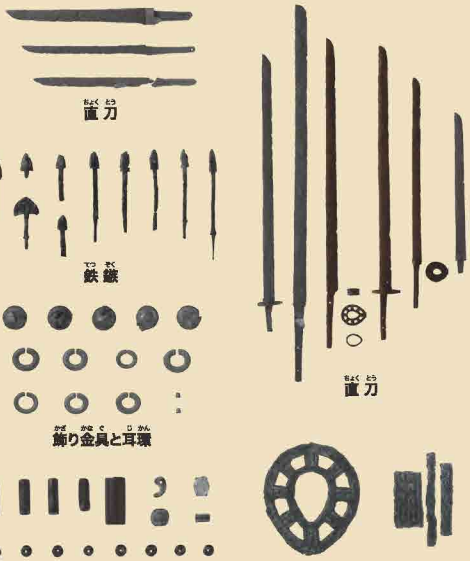
染屋台地を見守る古墳

横穴式石室

調査前の陣馬塚古墳

副葬品の出土状況

横山丘陵の頂部にある陣馬塚古墳は、周囲に墳が迫る古墳時代後期の円墳です。一九九三年の長野県埋蔵文化財センターの発掘調査では、墳丘の直径八、二メートル、高さは一メートルとされましたが、周溝の掘削からは、さらに大きかった可能性もあります。金属五、二メートルの横穴式石室からは直刀九本（鉄鏃四三点、耳環七点、玉類、土師器など多くの副葬品が出土しています。副葬品から六世紀末頃に築造され、何世代かの埋葬が行われたことがわかりました。横山丘陵の南に広がる染屋台地は、水の便が悪く、耕地開発は遅れ、開墾が発展した江戸時代以降と思われてきました。一九九六～七年に行われた上田市教育委員会の発掘調査で、古墳時代中期後半から後期前半の人物埴輪を清水ノ多数の鉄鏃、建物跡や埋葬された西方寺遺跡が見つかり、六世紀には染屋台地の開発が始まっていた可能性があります。染屋台地を見下ろす位置にある陣馬塚古墳の被葬者は、この台地の開発にかかる先駆的有力者だったとも考えられます。



出土品：長野県立歴史館蔵

長野県教育委員会
上田市埋蔵文化財センター
上田市教育委員会